

古書のたのしみ（令和六年三月）

土屋 博

一「泰平年表」

（忍屋隠士藏版、三百部限定、一一八丁）

古書價格五百圓也。東照宮（家康）より大御所公（第十一代将軍家齋）までの歴史年表なり。豆粒の如き崩し字なれば、判讀不明なれど、昔の人の歴史の纏め方を知るよすがとなる。古書店によりては、三萬七千圓の値を附す。



二「直毘靈 全」本居宣長著

（藏板人愛知縣平民片野東四郎、明治八年版權免許、二六丁）

古書價格三百圓也。ナホビノミタマは、本居宣長の神道觀の骨子を述べたるもの由。



三「下土特別教育用 國漢文教程 卷一」

（教育總監部、明治三十三年刊、九五丁）

古書價格三百圓也。教育總監部とは、日本陸軍の教育を掌る部署なり。（本書發刊當時の教育總監は初代の寺内正毅なり。）

冒頭に曰く、「國漢文は、明晰に自己の意思を表章し、且つ正確に他人の文章說話を理會せむが爲に、學ぶものなり」と。

教材の選擇、興味深し。以下に例を記す。

貝原篤信（益軒）よりは、「學（マナビ）の要（カナメ）」、「毀譽」、「人に交はる道」、「用材」、「知恥説」、「樂訓」を収録す。
新井君美（白石）よりは、「武家の嗜」及び「武田家の末路」を収録す。
頼襄（山陽）よりは、「兒島高德題櫻樹」、「源義經會頼朝」、「鴨越之戰」、「築山奉盈に贈る文」、「櫻井遺訓」を収録す。
吉田松陰よりは、「士規七則」全文を掲載す。
山縣有朋よりは、「士卒及役夫に與ふる訓示」、大山巖よりは、「剽掠を誡むる訓令」を収録す。
太平記よりは、「楠正成兵庫に下る」、「花の櫓」、「松の下露」、「大塔宮の十津川落」を収録す。

文語修得には、迂遠の道なれど、昔の教科書を眺むること、一つの参考となるらむ。



四「山陽真蹟詩歌帖 賴山陽自筆 天地」

（鳩居堂發兌、明治三十九年刊、上卷卅二丁、下卷廿四丁）
古書價格二千五百圓也。帙入。「芳野四首」など収録す。類似のものは過去にも購入せり。



五「老子講義」三島中洲先生著

（石渡正文堂、大正九年五版、定價金貳圓、三〇六頁）

古書價格五百圓也。初版は大正四年。明治四十四年秋より翌四十五年春に亙り二松學舎講堂に於いて高等科生の懇請により講義せられたるものの筆記錄なり。三島中洲は一八三一年生れ、一九一九年歿。漢學塾二松學舎の創設者。備中國窪屋郡（今の倉敷市）に生れ、山田方谷、齋藤拙堂に師事。江戸に上り昌平黌に入り、佐藤一齋、安積良齋に師事す。東京高等師範、東京大學、國學院の各教授、東宮御用掛・侍講を歴任す。西班牙風邪にて没す。

六「日本二千六百年史物語」高須芳次郎著

（新潮文庫、昭和十四年刊、定價六十錢、三四一頁）

古書價格二百圓也。高須芳次郎は、一八八〇年生れ、一九四八年歿。早稻田大學英文科卒の文藝評論家。小生も所有する「日本名文鑑賞」シリーズ（厚生閣刊）全八巻の編著者にして、水戸學、日本思想に關する著作多し。

七「昭和十八年印刷 國漢文教程甲參考書 第一分冊」

（陸軍豫科士官學校、昭和十八年刊、一一七頁）

古書價格二百圓也。「第十二中隊第一區隊、松野某」のサインあり。

目次をみるに、古事記、萬葉集、平家物語、太平記、不動智（澤庵の作）、葉隱（鍋島論語）、武士訓（肥後藩士井澤長秀の作）、うひ山ふみ（本居宣長の國學序論）、書牘（赤穂義士大高源吾の母への書翰ほか）、和歌、俳句と續く。

（令和六年四月三日受附）